



# 特集 小さな所（作業）で 小さな事故

## ①金属製品加工作業（グライ ンダー研磨作業、バリ取 り、切削作業等）で



目の災害

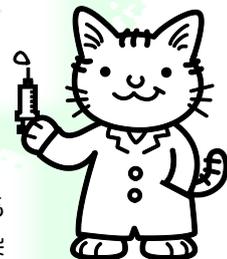


仕事柄、目に細かい金属片等が入る災害が多数発生しています。保護眼鏡の着用は勿論ですが、切粉や鉄粉等の入った目を手でこするなどして症状が重くなるケースがよくありますので、無理せずすぐに眼科医に行くことをお勧めします。

## ②病院などの医療機関で



針刺し災害



看護師さんなどが注射器の取り扱い中に誤って自分の手などを針で刺す災害も多く発生しています。針刺し災害で怖いのは、傷そのものより、肝炎等への感染です。実際、感染した例もあります。

## ③手袋をしている作業で



巻き込まれ災害

手袋（特に軍手）をしながらベルト、旋盤、ギア、ドリル、ボール盤などの回転する機械の傍で作業している時に、軍手が刃や切り屑等にかからまり、あっという間に手や腕まで巻き込まれ、時には死亡する災害も発生しています。軍手は思いもかけない大きな災害の原因になりますので、巻き込む危険のある機械を使用する作業では使用が禁止されています。



## ④厨房や食料品加工現場で



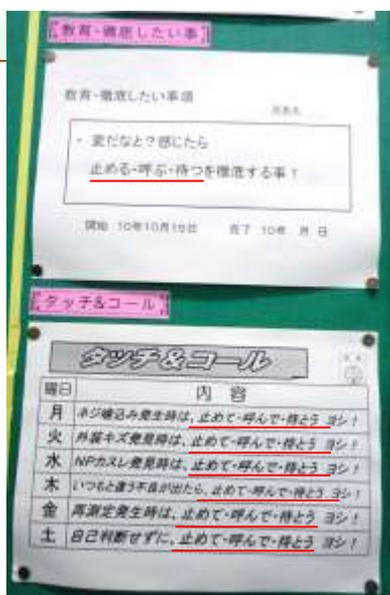
包丁やナイフ  
による切傷災害

レストランや病院等の厨房や食料品を加工する現場では、包丁などで手や指を切る災害が、ベテラン、新人を問わず、多数発生しています。平成 20 年には、高崎市内のスーパーの鮮魚売り場・加工室で、冷凍マグロを扱っていた経験年数 25 年の職人の左大腿部に包丁が刺さり、搬送先の病院で出血性ショックにより死亡するという災害が発生しました。



↑ 被災者が作業していた、まな板の上の状況（「包丁」刃渡り 27 cm）と作業時は凍っていた「マグロの塊」

→ 日立オートモティブシステムズ(株)群馬事業所で撮影



## 安全の合言葉は 止める 呼ぶ 待つ

企業の生産ラインでは、不具合やトラブルが生じた際、作業員が機械を止めずに修理したり、とっさに手を出したために、事故に遭うケースが後を絶ちません。

そこで、勝手に手を出さないで、まず機械を**止め**、担当者を**呼んで**、来るまで**待つ**ことをルール化し、災害防止を図っている企業が増えています。